

たくさんの思い出を ありがとう

～亀岡会館・中央公民館さよならセレモニー～

昭和45年11月の落成以来、市民の皆さんの文化活動や発表の場として親しまれてきた亀岡会館と中央公民館。老朽化が著しく、長寿命化が困難であることから両施設を取

り壊すことになり、6月2日と3日、別れを惜しむイベントを開催しました。

2日は、亀岡会館大ホールで使われていた座席でオリジナルスツールを作るワークショップを開催。参加された皆さんは、思い思いに板を張り付けたり、好きな色に塗るなど、長年使われた座席がこれからも使えるよう、新たな形に作り変えられていきました。

3日には、「さよならセレモニー」を開催。落成式や成人式、市民文化祭など亀岡会館でのイベントの様子、中央公民館で活動していた市民サークルや団体の活動を伝えるスライド上映会が行われ、集まった約140人の市民の皆さんは昔を懐かしんでいました。また、亀岡会館で、定期演奏会を開催していた亀岡市吹奏楽団による演奏や、女声コーラス五月会のリードにより「亀岡ふるさと讃歌」を参加者全員で合唱しました。他にも、多くの皆さんから寄せられた感謝の気持ちや思い出をしたためたメッセージが披露されるなど、名残りを惜しむ中、約半世紀にわたる市民の皆さんの文化活動が、両施設とともにあったこと

皆さんとともに、思い出を振り返りました



信されているアレックス・カーさんは5月16日、市役所を訪問。「亀岡は丹波霧の美しさや寺社、各所の庭園の雰囲気や印象的。古民家活用などの活動を通じて、その魅力を伝えていきたいです」と話されました。

両施設の建物はなくなってしまうますが、亀岡会館大ホールの照明器具は市内小中学校で活用され、舞台の踏み台は、市役所1階の中庭テラスで使われるなど、新たな場所に引き継がれる予定です。

京都・かめおか観光PR大使 アレックス・カーさん・佐藤征史さん に委嘱状を交付



アレックス・カーさん(右)



佐藤征史さん(中央)

亀岡市の魅力を広くPRするために新たに創設した「京都・かめおか観光PR大使」。本市にゆかりがあり、全国的に活躍されている著名人に就任いただいています。秋本治さん(漫画家)に続きこのほど、アレックス・カーさん(NPO法人篤庵トラスト理事長、東洋文学研究者)と佐藤征史さん(「くるり」ベジスタ、ミュージシャン)に、桂川市長から委嘱状を手渡し、対談を行いました。

国内外に日本の伝統文化、自然の美しさを積極的に発信



亀岡会館大ホールの座席でスツールを製作

できあがったスツール



24時間いつでも申し込みが可能

さらに便利に、水道・下水道

水道・下水道は、私たちの暮らしを支えるライフラインです。6月1日から始まる「水道週間」にあわせ、亀岡市ではJR亀岡駅において街頭啓発活動を行い、水道事業への理解と、同事業への協力を市民の皆さんに呼び掛けました。

また同日、本市では開閉栓(水道および下水道の使用開始や中止)に関すること、使用されている人の名義変更や請求先の変更について、インターネットから申し込みができるサービスを開始しました。

これは、近年のインターネットの普及や生活様式の変化に伴い、より質の高いサービスの提供を行うもので、窓口や電話での申し込みが不要となり、メンテナンス時を除き時間に関係なく、いつでも申し込みができます(従来通り、窓口や電話での申し込みも可)。申し込みいただく申請データは、暗号化して送信され、安全性を確保しています。

ご利用は、亀岡市ホームページからお願いします。なお、使用開始(または使用中)希望日の1ヵ月前から3営業日前までの申し込みが可能です。



水道週間の啓発活動(JR亀岡駅)

第三百九十二回 亀岡ちよつと昔の道具箱(22) 文化財めぐり

ローラー式 脱水洗濯機

夏に向かって洗濯機もフル活動の季節ですね。今は、洗濯機にぼんぼん放り込んでボタンを押せば自動的にできあがりますが、昔は違いました。たらいに水をためて洗濯板でこしこすったり、濡れた重たい洗濯物を手でぎゅっとしぼったりと、洗濯は当時の主婦にとって大変な重労働でした。

電動洗濯機は、1950年代に普及し始め、白黒テレビ・冷蔵庫と共に三種の神器と呼ばれて、庶民のあこがれの品でした。ローラー式脱水機能がついたものも同じころに販売されました。洗いあ

▶「ローラー式脱水洗濯機」
がった洗濯物を2本のローラーの間にはさんでハンドルの回すと、あら不思議、洗濯物がピンとなって出てきて、もちろん脱水もできています。この爽快感はお洗濯が楽しくなってしまう程です。脱水機能はその後も、遠心力を使って水分を切ったり二層式洗濯機が発明されたりと、どんどん進化していきました。(文化資料館)

